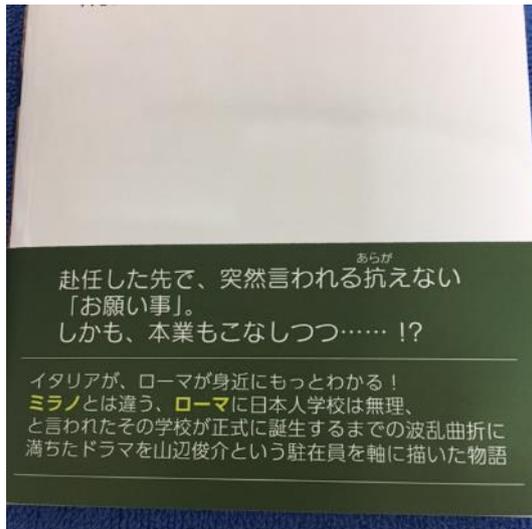


【再掲】本の紹介「『ローマの日本人学校』～二つの町が一つになるとき」



★★「ローマの町に日本人学校なんて無理」と言われた……★★

Q:では何故 **ローマの町に30年ほど前まで「日本人学校」がなかったのでしょうか？**

A:おもな理由はこれでした：

1) 在住の日本人が極めて少ない

⇒学童が少ない

⇒学校運営資金が十分ではない

⇒運営する人も極めて限定されてしまう

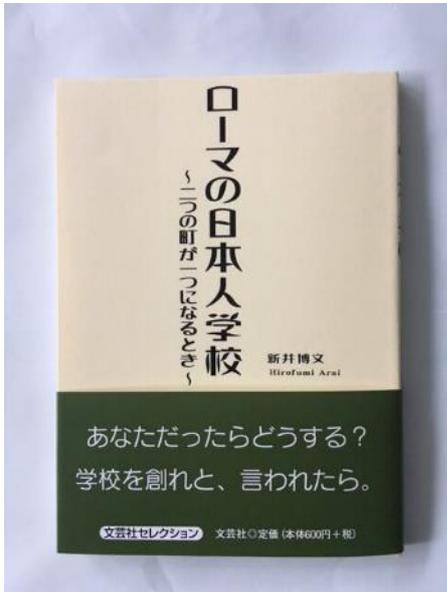
2) **その上、学校記教育に対する考えか方も当然のことながら多岐にわたっている**

—日本語による日本の教育

—国際校による英語教育

—現地校による現地教育

そうなると、日本人学校を要望する学童・家庭は極めて少なくなり
運営する力が必要十分ではなくなる



Q:何故、日本の在住者がローマに少ない？

A:おもな理由はこれでした：

—商業の町「ミラノ」に邦人企業のオフィス

が集中

—ローマは政治の町、観光の町—大使館（在イタリアと在バチカン市国の2つの大使館、文化会館、国連のFAOなどの公共機関が多い



- 公共機関の職員やマスコミ関係者が多い、そして
- 芸術分野で活動される方が多い、一方で、
- 民間企業の駐在員は観光・運輸など限定的

最近では、時代の変遷により事情が変化しつつあるようです。

トリノやフィレンツェにも補習授業校というのができています。

◆◆◆そんなローマの町を舞台に、そんな事情が背景にあるとは知らずに赴任した36歳の山辺俊介というサラリーマンがどう行動し、どのようなドラマがこの町に、当時の在住日本人の間に展開されたのでしょうか。

それが『ローマの日本人学校』に描かれています。

また、当時のローマがどうだったかも分かります。



投稿者： 新井博文 ヒンディー語 1974 年卒業

本投稿へのご意見、ご感想等はこちらまで